

## 春の特別企画展 第6弾 開催!!

『イタイイタイ病映像展・写真展』【入場無料】

今年は、国によるイタイイタイ病の公害認定から50年になります。その節目を迎えるにあたり、この間の関係者や社会の様子、さらには裁判中の出来事などについて、映像や写真でじっくりと振り返ります。

・日時 平成30年4月29日(日・祝)～5月6日(日)  
・場所 イタイイタイ病資料館

※詳細については、資料館ホームページなどでお知らせします。

## 資料館の動き

### これまでの出来事 (平成29年度下半期)

平成29年度

- 10月 7日(土) 四大公害病の語り部講話を聴く集い～語り部による伝承会～
- 11月 3日(金祝) 読み聞かせと書籍の紹介・解説の集い
- 11月23日(木祝) イタイイタイ病資料館講演会

平成30年

- 2月18日(日) イタイイタイ病を考える県民フォーラム

### これからの行事予定 (平成30年度上半期)

平成30年度

- 4月29日(日・祝)～5月6日(日) 春の特別企画展『イタイイタイ病映像展・写真展』
- 6月23日(土) 語り部・解説ボランティア研修会
- 7月28日(土) 夏休み自由研究講座～イタイイタイ病を学ぼう～
- 8月 3日(金) イタイイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー
- 8月下旬 イタイイタイ病資料館活用研修会

※詳細については、資料館ホームページなどでお知らせします。

## 語り部講話の聴講者を募集しています

資料館を団体(原則10名以上)で見学される場合には、事前に申込みいただくと、イタイイタイ病に関して貴重な体験をされた語り部さんの講話を聴くことができます。(来館される3週間前までにお申し込みください。)

詳細については、資料館ホームページをご覧ください。

## メールマガジン登録者募集中

月に1回、資料館の最新情報などをお伝えるメールマガジンを配信しています。配信を希望される方は次のメールアドレスあてにメールを送信してください。

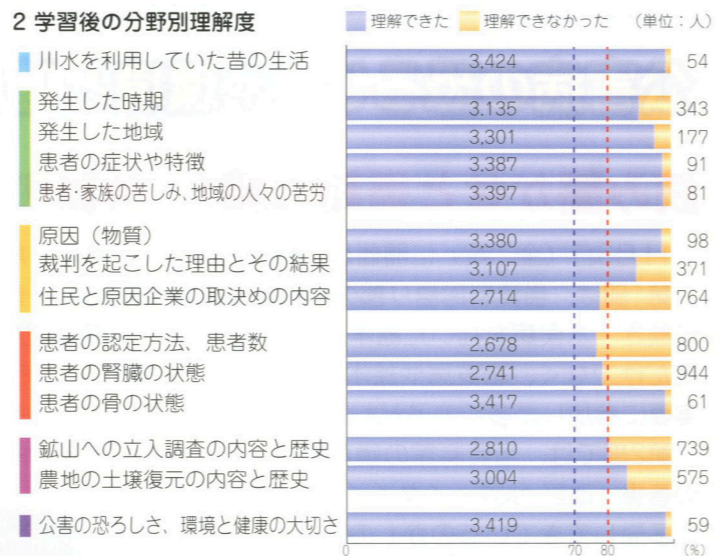
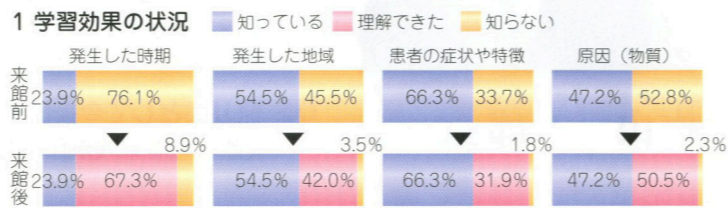
【mlhope@itaitai-dis.jp】

## 子どもたちの

### 「理解」と「興味」が深まっています!

「課外学習サポート事業」利用者調査結果(平成29年度中間とりまとめ)

調査対象：小・中・大学生(短期大学・専門学校を含む) 3,478人(57校)



### 調査結果から

・ほとんどの分野において、利用者の8割以上が「理解できた」と回答がりましたが、「住民と原因企業の取決めの内容」や「患者の認定方法、患者数」、「患者の腎臓の状態」の3分野においては、昨年度と同様、7割割に留まりました。このことから、子どもたちの視覚や感情に訴えるためのさらなる工夫に努め、理解度の向上に取組んでまいります。

## 課外学習サポート事業の利用校募集のお知らせ

～3月27日(火)より募集を開始します!!～

新年度も多くの子どもたちにイタイイタイ病について学んでいただくため、学校等に「無料送迎バス」を提供する「課外学習サポート事業(環境省委託)」を実施します。

資料館への送迎は、これまでと同様に、学校や県内施設を起点・終点として実施します。また、近接する「四季防災館」の見学の場合は、無料区間が延長され、より利用しやすい内容となっています。利用条件など詳細については、資料館までお尋ねください。

# 資料館だより

2018年 春号

contents

- 四大公害病の教訓を未来へ……………2
- イタイイタイ病の「学び」を広げるために…2
- 語り部コーナー……………3
- 公害病の恐ろしさや環境と健康の大切さについて考えました 3
- 資料館インフォメーション……………4

平成30年  
2月18日

## イタイイタイ病を考える県民フォーラム開催!



石井隆一 富山県知事挨拶



記念講演(講師:紺野美沙子氏)



学習発表①  
富山市立室中部小学校(5年生)



学習発表②  
富山市立堀川小学校(5年生)



学習発表③  
富山県立富山高等学校 探究科学科(1年生)

## 社会病としての公害

富山県立イタイイタイ病資料館 館長 鏡森 定信

今年は、国のイ病公害認定から50年になる。当資料館は、開設以来6年が過ぎ、年数では小学校から中学校に入り、その役目も重くなる。

この認定前50年を振り返ると、鉱害の被害が著しく、1920(大正9)年には、作物の生育被害に対して地元の農会長が、農商務大臣と富山県知事に鉱業法による鉱業警察の発動を求めている。この鉱業法は、事業主に公益の保護対策や操業停止を命じる鉱害条例(1890・明治23年制定)に端を発し、1905(明治38)年に条例から法に格上げされたものである。その後、1939(昭和14)年には無過失責任が追加され被害救済面で強化された。イ病被害住民が比較的短時間で勝訴したのは、この法整備の助けも大きいとされている。資料館として、被害の実態から始まり、社会の仕組みについても学びが深まる工夫をしたい。

当資料館とも交流がある水俣市立水俣病資料館(熊本県)の語り部である緒方正実さんは、「患者に手を差し伸べてほしいのではなく、豊かな暮らしを求めようとする中で、その裏に悲劇が待ち構えていることを知ってほしい。(精神科医、香山リカとの対談)」と話されている。悲劇を防ぐ社会の仕組みにも心したい。





# 四大公害病の教訓を未来へ



## ●「四大公害病の語り部講話を聴く集い～語り部による伝承会～」を開催しました。



四大公害病の語り部らによる意見交換

10月7日（土）、四大公害病の語り部が一堂に会し、公害被害と教訓を後世に語り継ぐ集いを開催しました。

前半は、「イタイイタイ病資料館」の江添良作氏、「四日市公害と環境未来館」の山本勝治氏、「新潟県立環境と人間のふれあい館」の曾我浩氏、そして、「水俣市立水俣資料館」の緒方正実氏より、実体験を踏まえながら被害の歴史や克服までの過程、公害の恐ろしさや当時の暮らしの様子など順に語っていただき、約50名の参加者は、それぞれの語り部独特の口調で語られるお話に真剣に耳を傾けていました。

後半では、講話いただいた4人の語り部とイタイイタイ病対策協議会の高木勲寛会長、資料館の鏡森館長も加わり、「公害の事実と教訓を風化させないために」をテーマとした意見交換を行い、公害を知らない子どもたちを中心とした若い世代への積極的な伝承の大切さなど話し合われました。

## 県民フォーラム

# イタイイタイ病の「学び」を広げるために

開館以来6回目となる「イタイイタイ病を考える県民フォーラム」を2月18日（日）に開催し、過去最多となる約120名の参加者がイタイイタイ病の恐ろしさや克服の歴史、環境と健康の大切さについて理解を深めました。石井知事による開会挨拶の後、次代を担う小学生と高校生より、資料館の見学を踏まえ学習した成果について発表していただきました。彼らの発表を通じて、イタイイタイ病の事実と教訓を将来へ繋いでいくことの重要性を改めて感じるものでありました。

また、当資料館の入館者状況や取り組みなどについて、鏡森館長による事業報告に引き続き、女優で国連開発計画（UNDP）親善大使でもある紺野美沙子氏をお迎えしての記念講演を行いました。「国連開発計画（UNDP）親善大使として、見たこと、感じたこと」と題し、親善大使としてカンボジアなど数多くの途上国の訪問を通して、「現在も20秒に1人の子どもが命を失っている。現実を見つめ、今後も、途上国の貧困や格差の問題に関心を持つことの重要性を訴えていきたい。」とお話されました。

### 【発表者と発表内容】

・富山市立山室中部小学校（5年生）  
資料館への校外学習を通して学んだことをきっかけとして子どもたちが興味や関心を持ったことについて、調べたことや学んだこと。また、そのことによって感じたことや考えたこと。

・富山市立堀川小学校（5年生）  
資料館の見学や語り部の話を通して感じたことや学んだこと。また、社会科の学習で行ってきた「くらしと災害」の学習との関連から考えていること。

・富山県立富山高等学校 探究科学科（1年生）  
資料館や清流会館での学習からイタイイタイ病の背景や実情、取り組みなどについて学んだこと。また、これまでの被害者団体の尽力と、県が資料館を新設したことの意義について整理し、それらの意義などについて考えてみたこと。



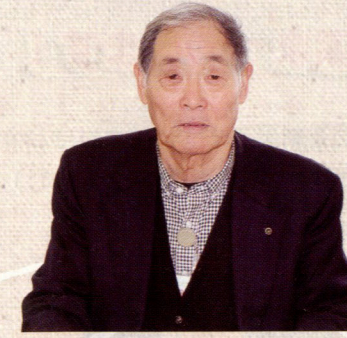
### 参加者の声

学習発表会を見て、イタイイタイ病にもっと真剣に向き合いたいと思いました。（50歳代・女性）

富山で起きた公害病を再度引き起こさないよう、長い闘いの歴史を風化させないためにも、今後も、フォーラムには多くの方に参加していただきたいです。（60歳代・男性）

紺野美沙子さんのお話が大変すばらしく、改めて、（富山県が）水に恵まれていると実感しました。（60歳代・女性）

## イタイイタイ病を語り継ぐ 資料館の 語り部さんです



ほうさやま はちろう  
柵山 八郎さん（76歳）

資料館の語り部の方をシリーズで紹介します。  
今回は、資料館の開館から6年間、語り部をされている柵山八郎さんに、これまで活動されてきて、うれしかったことや今後伝えていきたいことについて聞いてみました。

柵山さんの祖母のあやさんが、イタイイタイ病の患者でした。  
1962(昭和37)年、81歳頃から痛みがひどくなり、1967(昭和42)年12月29日の早朝、86歳で亡くなりました。  
祖母を看病された経験を、たんとと語られる口調の中に、柵山さんの実直さが感じられます。

### Q1 これまで活動されてきて、うれしかったことは？

・講話を聴かれた小学生や中学生からお礼の手紙をいただき、自分の話を理解していただけたこと。

### Q2 語り部として今後伝えていきたいことは？

・実際に患者家族が体験し苦しんだ過去を風化させてはいけないこと。



# 公害病の恐ろしさや環境と健康の大切さについて考えました

## 読み聞かせと書籍の紹介・解説の集い

11月3日（金・祝）に開催し、約30名の方々に参加いただきました。

第1部は、当資料館語り部の小松雅子氏原作の絵本『イタイイタイ病のはなし』に続き、水俣病を描いた絵本『みなまの木』の朗読を行いました。今回は、朗読だけでなく、紙芝居や絵本をスクリーンに映し出して視覚にも訴えたことで、実際に参加した多くの子どもたちにも大変わかりやすいものとなりました。

第2部では、当資料館の鏡森館長より、元イタイイタイ病弁護団の松波淳一氏の著書「改訂 私説・イタイイタイ病は何故に女性に多発してきているのか」の紹介と、その内容を基に医学的な見地から、イタイイタイ病の症状や女性に多い理由についての説明があり、真剣にメモをとる参加者の姿を多く見受けました。

また、資料館初の試みでしたが、関連イベントとして、10月27日（金）～11月9日（木）の読書週間に合わせ、イタイイタイ病に関する書籍35点を展示し、多くの方々に閲覧いただきました。



紙芝居の朗読  
（朗読：稲垣 千香子 氏）



絵本の朗読（朗読：田村すみ子氏）  
（資料館 解説ボランティア）



イタイイタイ病に関する  
書籍の展示

## イタイイタイ病資料館 講演会



講演されている松波淳一氏  
当日は多くの方々に参加いただきました。

11月23日（木・祝）、元イタイイタイ病弁護団の松波淳一氏をお迎えして、「神岡鉱山からのカドミウム排出とその被害の歴史」と題しての講演会を開催し、患者家族や弁護団関係者など約70名が参加されました。

松波氏は、スライドに映し出した当時の新聞記事や神岡鉱山の地図、患者の写真等を紹介しながら、鉱山の歴史や病気の症状、カドミウムが原因と特定されるまでの経緯など説明され、参加者は真剣に耳を傾けていました。被害者の救済や環境の克服が、松波氏をはじめ多くの先人の努力の上にあることを改めて確認し、今後、二度と悲惨な公害を引き起こしてはいけないという思いを会場の参加者とともに強くした講演会となりました。

